

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス はなうーる2nd		
○保護者評価実施期間	R8年 3月 20日 ～ R8年 3月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32 (回答者数)	20
○従業者評価実施期間	R8年 4月 15日 ～ R8年 5月 11日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 5月 12日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	発達支援スペースが十分にあり、パーティションで仕切る事で、児童の特性や課題に合わせて活動を分け、個別的なアプローチで適時支援が行える事。	理学療法士、作業療法士が在籍しているため、専門的知見（標準化されたアセスメントツール）から得られる評価を活用して児童の実態把握が行えるため、保護者や児童本人から得られるニーズに専門性が生かされている。	専門的な知見から得られる一人一人の個別的なニーズや課題を一覧表に挙げて職員間で共有し、集団活動と個別活動を同時進行で支援を実施する事で効率的で効果的な支援を図っていくとともに、専門職員が休みの場合でも全職員で支援を行えるよう取り組んでいく。
2	活動内容やプログラムの設定について、職員、保護者、児童の要望や提案を具現化する事が出来ている。	児童の要望や職員からの提案を職員全体で話し合い、それぞれの思いや、実際に活動内容として取り組むうえで必要な児童一人一人のスキルや目標を掲げて日々の活動に取り組んでいる。職員同士や事業所全体での協力関係、保護者の賛同を得られるよう日々のコミュニケーションを密に行っている。	児童達が「やってみたい、行ってみたい」という思いを、職員や保護者、一事業所のみで実現する事が難しい案件も要望として挙がってくるため、賛同してくれる地域や協力機関などの地域資源を発掘し、協働で実現できるよう、日々の繋がりをコミュニケーションを大切に行っていく。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の子ども達や児童館などの児童施設との連携が取りづらい。	児童館を利用する場合、事前予約が必要であり、児童同士の交流ではなく、施設自体の借用となってしまうため、連携を取る事が難しい。	交流相手を児童館に限定するのではなく、近隣の子育て支援施設を利用している児童や学童、同業の事業所との合同の活動、高校生ボランティアとの交流を軸に進めていく。近隣の子育て支援施設の担当者や、高校生ボランティアの担当教員とは会話ベースで承諾を得られている為、次年度の実施に向けて企画を進めていく。
2	非常災害時や緊急時の避難先の周知が行えていない。	児童の徒歩圏内に指定津波避難所がなく、当事業所が入居している建物も屋上階へは梯子での移動が必要なため、津波避難所としての確保が行えていない。近隣の指定津波避難所は徒歩圏内ではあるが、土曜日、祝日は休館のため、指定権者の市町村へ災害時の使用について依頼をかけている。	児童の徒歩圏内の指定津波避難所の災害時の使用について、指定権者に依頼をかけているが、明確な返答が得られていないため、再度依頼を行う。保護者に対して、暫定的な避難所として当該施設を周知していく事が必要。
3			